



## 令和5年産ダイズ主要病害虫の発生概況と 令和6年産に向けた防除対策について

茨城県病害虫防除所の調査によると、病害では、紫斑病、べと病の被害粒率は平年並、ウイルス病の被害粒率は平年よりやや高くなりました。虫害では、吸実性カメムシ類、マメシクイガによる被害粒率は平年並となりました。令和6年産ダイズ生産にあたっては下記の防除対策を参考にして行って下さい。

### 紫斑病

- ① 茎葉を含む被害残渣は適切に処分し、被害が多発した圃場では連作を避ける。
- ② 種子更新を行う。
- ③ 防除適期は開花期の20日後頃である。
- ④ 開花期から成熟期までに連続した降雨がある場合は、開花期の30日後に追加防除を行う。  
2回目の防除を行う際は、1回目の薬剤とFRACコードの異なる薬剤を散布する。
- ⑤ 収穫が遅れると発生が多くなるので、適期に収穫する。



写真1  
子実での発病  
(紫斑粒)

### ウイルス病

- ① 種子更新を行う。
- ② 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなることから、媒介虫であるアブラムシ類を早期に防除する。
- ③ 発病株は早い時期に抜き取り、処分する。

### 吸実性カメムシ

- ① 薬剤防除は莢伸長期以降、発生に応じて7～10日ごとに複数回行う。
- ② 幼虫も子実を加害しながら成長するため、幼虫の発生状況にも注意する。

### べと病

- ① 茎葉を含む被害残渣は適切に処分し、被害が多発した圃場では連作を避ける。
- ② 種子更新を行う。
- ③ 密植を避け、風通しを良くする。
- ④ 防除適期は開花期～子実肥大期である。
- ⑤ 発病程度は品種間差があり、「里のほほえみ」は「タチナガハ」に比べて発病しやすい傾向にあるので、発病初期からの薬剤防除を徹底する。



写真2  
菌糸で覆われた子実

### マメシクイガ

- ① 成虫の移動性が低く発生圃場で繁殖・越冬するので、連作を避ける。
- ② 防除適期は産卵最盛期～その約10日後であり、大豆の生育ステージとしては、莢伸長終期～子実肥大初期頃にあたる。



写真3  
食害を受けた子実

写真1、2、3：茨城県病害虫防除所

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。